

## 食道胃接合部癌に対する腹腔鏡下手術の短期成績に関する検討

### 研究対象：

2008年1月～2015年12月に国立がん研究センター東病院にて食道胃接合部がんに対して根治術を受けられた患者さんを対象とします。

### 研究の概要：

食道胃接合部がんへの腹腔鏡下手術の適応に関しては議論の余地が残るところではありますが、当院では患者さんへの十分な説明・同意の上2010年より導入しています。当院では、食道へがんの浸潤が3cm以上、または扁平上皮がんという組織型の場合は食道外科による食道亜全摘と縦隔にあるリンパ節の切除（3領域郭清）を、それ以外は第4版胃癌治療ガイドラインのアルゴリズムに従って治療を行っています。また、がんの進行度がcT3N1までは腹腔鏡下手術を、それ以上の進行度、術前に化学療法を行った患者さん、上腹部の開腹手術歴がある患者さんは開腹手術を選択しています。また2011年以降は胃が1/2残せる場合は、噴門側胃切除(PG)を選択しています。

食道胃接合部がんに対する腹腔鏡下手術は現時点では利点を示す客観的なデータはほとんどなく、当院での腹腔鏡下手術、開腹手術の短期成績を検討し、今後の診療に役立てることは非常に有用です。

### 研究の意義：

本研究では、これまでに行われてきた食道胃接合部がんの腹腔鏡下手術と開腹手術に関する短期成績を検討し、それぞれの術式の特徴や合併症のリスク因子等を把握することを目的としています。今後、食道胃接合部がんの術式を選択する際に、本研究により報告されたデータに基づき、より安全、低侵襲な術式選択の一助となります。

### 目的：

本研究は食道胃接合部がんに対する開腹手術を行った群と腹腔鏡下手術を行った群の現在までの短期治療成績につき検討し、腹腔鏡下手術の安全性、有効性を評価することを目的とします。

### 方法：

2008年1月より国立がん研究センター東病院にて食道胃接合部がんに対して根治術を受けられた患者さんに対して腹腔鏡下手術、開腹手術それぞれを行った群で手術時間、出血量、術後在院日数、術後合併症、術後体重減少等の短期治療成績につき比較検討を行い

ます。

個人情報保護に関する配慮：

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は本研究専用 to 別途割り振られた研究番号を用いて管理し、個人情報 that 院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

研究責任者：木下 敬弘

国立がん研究センター東病院 胃外科

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

TEL：04-7133-1111 内線：91250

照会先および研究での利用を拒否する場合の連絡先：

国立がん研究センター東病院 胃外科 杉田 静紀

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

FAX 04-7131-4724 / TEL 04-7133-1111 (内線 91380)